

1 目的

枕崎市大塚地区は60年の歴史を持つ電照ギクの産地ですが、冬季の日照不足や低温による輪ギクの品質向上（ボリュームアップ）対策が産地課題の一つになっています。特に、施設のサイド側は日照条件が悪いため品質低下につながる場合が多い状況です。

そこで、産地課題解決活動として日中にLEDを照射して補光を行い、今後の産地活性化へつなげていきます。

2 実施状況

(1) 大塚周年菊研究会活動内容

ア 令和2年度は、コロナ禍により活動が6月からとなりました。当研究会員は現在20～40代までの若き生産者8名でテーマを決めて毎月の定例会を行っています。



写真1 定期検討会の様子

(2) はじめに

ア 今作の枕崎市の気象は、平年と比較して、年内が低温、年明けが平年並みから高温で推移し、日照条件は、平年より長時間で推移しました。

イ 照明は、アグリシリンダー120Wタイプを使用しました。設置期間は、キクの定植後から収穫時まで、毎日午前8時半から16時まで1.8mの高さから照射しました。



写真2 LED照明設置状況

(3) 試験の実施と効果

ア 試験は厳寒期の生育となる2～3月出し栽培で行いました。日中にLEDを照射することで慣行栽培と比較して、草丈が長くなりました。また、輪ギクの本当たりの重量も重くなり、ボリュームアップしました。

イ ハウス内で日当たりの良い場所は最も生育が良好でした。

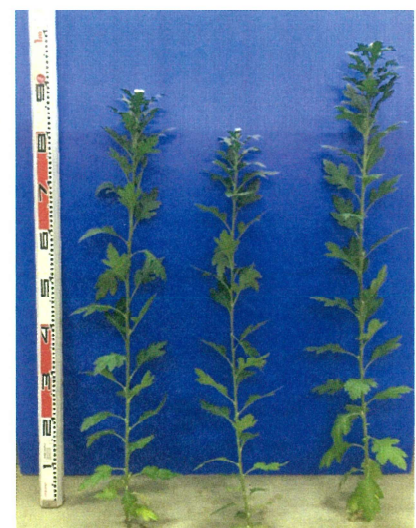


写真3 試験結果

左：LED照射区 中央：LEDなし区
右：日当たり良好区

3 今後の課題、取り組み

- (1) 輪ギク以外の品目（スプレーギク等）による検討
- (2) LED等の補光照明の費用対効果の検討
- (3) 新たな産地課題解決に向けた活動の実施